（様式４）

平成２７年3月１９日

富山県教育委員会教育長　　殿

富山県立富山高等支援学校
校長　　酒　井　元　雄

平成２６年度学校総合評価を別紙（様式５）とともに提出します。

平 成 26 年 度　　学 校 総 合 評 価

6　今年度の重点課題に対する総合評価

今年度、学校の現状と課題を踏まえ重点課題として、①作業学習の指導内容・方法の充実（学習活動)、②安全指導の充実（学校生活)、③就労に向けての意識の向上（進路支援)、④地域交流の推進と理解啓発（特別活動）の４項目を掲げた。重点課題の評価については、４項目の取組において達成度及び具体的な取組状況から、すべて「A」評価とした。

学校評議員会では、今年度の学校経営計画についての説明に加え、教科の授業や文化祭の様子を実際に見ていただいたり、作業学習や就業体験の取組、生徒指導に関する取組、地域に向けた取組等について説明を行ったりし、本校の現状と課題について多くの理解を得ることができた。また、重点課題の項目ごとに、担当者が具体的な取組状況について映像を用いたプレゼンテーションを行い、学校評議員からは、それぞれの立場からの貴重な提言や参考となる意見等をたくさんいただくことができた。

7　次年度へ向けての課題と方策

次年度は、いよいよ３学年がすべてそろい学校としての体制が整うとともに、初めて卒業生を送り出す年度となる。今年度の評価の結果を十分に踏まえ、学校評議員、保護者、地域、関係機関との連携等をより強固なものとし、課題に対する取組をさらに進めていきたいと考えている。

＜学習活動＞

・　作業学習を一層充実させるとともに、生徒には「働く意味」についての指導を継続し、繰り返し行っていく必要がある。作業学習や就業体験などを通し、今行っていることや作っているものがこの後どうなるのかというところまで指導し、人の役に立っているということを理解させるようにしていく。

＜学校生活＞

・　生徒増に伴い、生徒間の人間関係がより複雑化する中で、登下校時のトラブルやマナー向上に向けた取組がより重要となる。校内での指導を徹底するとともに、定期的に巡回指導を行ったり、保護者とも連携を図ったりしながら進めていく。

＜進路支援＞

・　３学年の就労先の確保が最大の課題である。加えて生徒増に対応した職場開拓や就業体験先の開拓も継続して行っていく必要がある。これまで以上に教員一人一人が強く課題意識をもち、全校体制で進路指導に当たっていく。

・　卒業後の就労生活を見通すと、職場での定着のためには保護者のバックアップが特に必要となることから、保護者の就労意識の向上も図っていく必要がある。保護者向けの進路学習会や進路相談の際、就労のみならず就労生活の面からも情報提供等を行い、支援を充実させていく。

＜特別活動＞

・　地域への理解啓発のため、地域行事への参加や地域の方々との交流をより一層充実させる必要がある。これまでの実績を踏まえながら、地域へのボランティア活動など新たな取組を企画し、積極的に推し進めていく。

（様式５）

８　学校アクションプラン

<table>
<tr><td colspan="3">平成２６年度　富山高等支援学校アクションプラン　―1―</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">学習活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">作業学習の指導内容・方法の充実</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">教育課程の中心をなす作業学習では、４つの分野（ものづくり、流通、環境、福祉）を設定し、その内容、指導方法について検討を加えてきた。卒業後の社会的・職業的自立に向けた支援の充実に向け、地元事業所との連携を確立し、指導内容を充実していく必要がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td colspan="2">地元事業所と連携した作業内容の選定と実施</td></tr>
<tr><td colspan="2">各分野、２種目以上（８種目以上）</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">・各分野で、社会的・職業的自立に必要な作業内容を検討する。
・検討した作業内容に即した業種の地域企業を開拓する。
・作業提供事業者から、作業の仕方について講習を受ける。
・作業学習に必要な指導内容を整理する。</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td colspan="2">各分野２種目以上（計１４種目）の実施</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="2">各分野担当者で作業内容を検討し、職場開拓担当者と連携した地域企業の開拓をおこない、種目の開発を行い、以下のとおり実施した。
【ものづくり分野　５社】
（木材加工）
・婦負森林組合（材料提供、木製コースターの製作→納品）
・カナディアンホーム株式会社（材料提供、こしかけ、ベンチの製作）
・株式会社元尾商店（木製トレーの仕上げ磨き作業→納品）
（食品加工）
・越國屋 新村こうじみそ商店（みそ製造に係る技術指導）
・有限会社 とと屋（大根のカット→納品）
【流通分野　５社】
・株式会社 松本（アメニティセットの袋詰め→納品）
・クレハ運送株式会社（ガスメーターの分解→納品）
・株式会社サイプラ（バリ取り作業→納品）
・東洋ガスメータ株式会社（ガスメーターの機器取扱説明書等の袋詰め→納品）
・アクティブ保険設計（チラシの袋詰め→納品）
【環境分野　２社】
・富山市大沢野健康文化推進財団（大沢野総合運動公園、大沢野プール、猿倉山森林公園の環境整備作業の提供）
・北陸ビル防設株式会社（清掃の技術指導）
【福祉分野　３社】
・デイサービスぽんぽこ（実習の場の提供及び介護補助の指導）
・デイサービスもみじ　（実習の場の提供及び介護補助の指導）
・特別養護老人ホーム ささづ苑（実習の場の提供及び介護に関する技術指導）</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>Ａ</td><td>・当初目標より全体で６種目多く選定できたことにより評価をＡとした。
・地域事業所より、指導や評価を受けることは、生徒の意欲を高めるとともに作業学習内容の充実につながった。この連携を継続・拡充したい。</td></tr>
<tr><td>学校評議員の意見</td><td colspan="2">・指導の一層の充実を目指すため、企業から評価されることや扱っている部材が誰の手に渡っているのかを意識させる指導を継続して行うことが必要である。</td></tr>
<tr><td>次年度へ向けての課題</td><td colspan="2">・企業からの評価だけでなく、使用者（例えば、作業製品等を使っている人）の評価も取り入れるようにするとともに、取り組んでいる作業が、誰のために役立っているのかを確実に意識できるような指導を行う。</td></tr>
</table>

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

<table>
<tr><th colspan="3">平成２６年度　富山高等支援学校アクションプラン　―２―</th></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">学校生活</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">安全指導の充実</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">本校生徒の通学は、原則徒歩や自転車、公共交通機関を利用しての自力通学である。いくつかの公共交通機関を乗り継ぎ、長時間かけて通学してくる生徒も多い。また、人との関わり方や規範意識の面で課題のある生徒も見受けられる。そういう状況から、通学途中や、日頃の生活の中での事故やトラブルが予想される。そこで、事故やトラブルに合わないようにし、自分の身を守るために必要な力を身につけることができるよう継続した指導を行う必要がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>通学時の安全指導</td><td>安全教室の実施</td></tr>
<tr><td>１５日以上</td><td>３回以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">・生徒一人一人の通学方法を把握し、全教職員で確認する。
・公共交通機関の乗り継ぎの場所やバス停に出向き状況を確認したり、指導を行　ったりする。
・交通安全、携帯電話やスマートフォンの正しい使い方、生活場面でのトラブル防止のための安全教室の開催や個々に応じた指導の機会を設けるなど、具体的な指導を行う。</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td>１９日</td><td>7回</td></tr>
<tr><td>具体的な
取組状況</td><td colspan="2">○登校時の安全指導を各学期始め、１学期４日間、２学期３日間、３学期２日間、富山駅、田村町バス停、笹津駅等で行った。また、下校時における指導は田村町バス停、笹津駅などで年間１０日間行った。生徒の通学時間の状況や、下校の様子など、問題があれば学校で待機している教員と連絡しながら随時指導を行った。
○安全教室の開催は全校生徒を対象とした交通安全教室、生活安全（非行防止）教室、薬物乱用防止教室、不審者対応講座を富山南警察署署員を講師に迎え開催した。また、１学年を対象に NTTdocomo、２学年を対象としてｅ―ネット安心講座より講師を招きケータイ、スマホの正しい使い方や、インターネットに潜む危険性などについて指導を受けた。さらに生徒指導部として、自転車の安全で正しい乗り方について自転車事故の事例も挙げながら全校生徒を対象に行った。</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>A</td><td>・通学時の安全指導、安全教室の実施ともに目標を達成したのでA評価とした。
・通学時の安全指導では、新入生の通学状況の把握や通学時の不安感を和らげることができた。また、帰りのバス停や駅でのマナーの向上のために下校時における巡回指導の回数を増やした。巡回を通して、バス停から歩道へ大きく広がっていたり、バス停や、駅でふざけ合っていたりするなど、乗車待ちの過ごし方で問題点を見つけることができ、指導することができた。
・安全教室の開催では、生徒により深く、真剣に受け止めてもらうために、警察をはじめ、外部講師による教室を多く設定した。学校の教員が日頃より指導していることでも、より説得力をもって伝わり、効果がみられた。</td></tr>
<tr><td>学校評議員の意見</td><td colspan="2">・下校時の田村町バス停で、バス通学でない生徒がそこにとどまり、バス通学の生徒と一緒に話込んでいる姿が目につくことがある。</td></tr>
<tr><td>次年度へ
向けての
課題</td><td colspan="2">・通学指導は今後とも行い、生徒が安心して登校できる環境づくりに努めていく。また、１学年から３学年までの学年がそろうことで、今年度よりも、下校時のバス停で一度に大勢がバス待ちをすることが予想される。生徒同士のトラブル防止やマナー向上に向けた取組として、下校時の安全指導をさらに充実していく必要がある。
・安全教室の開催は、さらに校外の力を多く活用することで、安全に生活することができる力を付けていけるようにする。</td></tr>
</table>

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

<table>
<tr><td colspan="4">平成２６年度　富山高等支援学校アクションプラン　―３―</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="3">進路支援</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="3">就労に向けての意識の向上</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="3">本校は、卒業後の就労を目指した生徒が入学してきている。しかし、生徒の日常生活や作業学習の態度から、就労や卒業後の生活について漠然としたイメージしかもっていない生徒が多い。また、卒業生がいないこともあり、身近なところで就労についての見通しをもたせることができない状況にある。そこで、生徒や保護者へ就労に関する情報を積極的に提供したり、企業見学を充実させたり、企業の代表者等から直接話を聴く機会を設けたりし、就労に対する意識を高めていく必要がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td colspan="2">生徒が就労について学ぶ機会</td><td>保護者へ情報を提供する機会</td></tr>
<tr><td colspan="2">３回以上</td><td>３回以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="3">・他の特別支援学校の卒業生や障害者の働いている企業等への見学会を行う。
・関係機関と連携をして、企業の担当者等による就労講話会を実施する。
・就業体験事後学習の充実を図り、生徒一人一人の見えてきた課題や不安感などについて把握し、その後の進路支援につなげる。
・進路だよりなどを通して、保護者へ就労についての情報を提供する。</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td colspan="2">５回</td><td>５回</td></tr>
<tr><td>具体的な
取組状況</td><td colspan="3">○１・２学年を対象とした企業見学会を１回、１学年のみの企業見学会を１回と計２回実施した。
○企業の担当者による就労講話を１回、ビジネスマナーの講座を１回、就労生活の面から講話を１回、就労している先輩による講話を１回と計４回実施した。
○就業体験の事前事後学習を３回の就業体験の前後に行った。特に事後学習では、各自の体験先の情報をプリントにまとめ、閲覧できるようにした。
○保護者への情報提供では、進路だよりなどの紙面による情報提供はできなかったが、保護者を対象とした進路学習会を各学年１回計２回行った。また、保護者対象の企業見学会を実施し、障碍者の就労の様子を見学したり、障害者雇用について担当者から話を聞いたりして学習する機会を１回設けた。
○各学年生徒対象の個別進路懇談会２回、４者懇談会を１回行う。　２学年については、卒業後の就労希望職種について話を聞き、その職種に関連する就業体験先について懇談した。１学年については、就業体験の希望職種と卒業後の就労について個々の思いを聞いた。</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>A</td><td colspan="2">・様々な立場の人を講師として就労講話を行い、就労意識を高めることができた。生徒対象に個別進路相談を繰り返し行うことで、就労についての意欲を高めることができたと考える。
・保護者への学習会や企業見学会を行うことで現状や保護者がすべき　役割りなどを伝えることができ、就労意識も高めることができたと思う。</td></tr>
<tr><td>学校評議員の意見</td><td colspan="3">・卒業後の就職先での定着には、保護者のバックアップが特に重要となる。保護者の意識を高めるには、働くことについてばかりではなく、暮らすこと（年金や生活を踏まえての話）についての部分からのアプローチがあってもよい。</td></tr>
<tr><td>次年度へ
向けての課題</td><td colspan="3">・保護者の意識の向上に向け、就労に伴う生活の面からの情報提供も行い、保護者向け進路学習会や進路相談会に生かし充実を図る。</td></tr>
</table>

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

<table>
<tr><td colspan="4">平成２６年度　富山高等支援学校アクションプラン　―4―</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="3">特別活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="3">地域交流の推進と理解啓発</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="3">昨年度は開校初年度であり、地域の方々に本校について知っていただくために、積極的に地域の行事に参加し本校の紹介を行った。それにより、少しずつではあるが、本校に対する理解が進んできている。開校２年目となる本年度は、これまでの地域の行事への参加やボランティア活動に加え、地域の方々を学校にお招きし、学校での交流活動を充実させたいと考えている。様々な教育活動を進めていく上で地域からの支援は大きな力となる。また、生徒たちの卒業後の居住地域での生活を考えると、世代を超えての地域の方々との関わりは貴重な学習の機会となり、これからも大切にしていきたい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td colspan="2">地域の方々を学校にお招きしての交流活動</td><td>地域へのボランティア活動の実施</td></tr>
<tr><td colspan="2">３回以上</td><td>３回以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="3">・地域の方々を学校にお招きしての生徒との交流活動を計画し実施する。
・地域の清掃活動や花壇作り、福祉施設等でのボランティア活動を計画的に行う。社会福祉協議会などと連携し、地域の方々との交流が深まるようボランティア活動に積極的に取り組む。</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td colspan="2">５回</td><td>６回</td></tr>
<tr><td>具体的な
取組状況</td><td colspan="3">○地域の方を招待しての交流活動を、計画し実施した。
５月　体育大会
・フライングディスクやボールリレーなどの交流競技を行った。
６月　屋外環境実習地整備
・芝植えを行った。
１０月　文化祭
・作業学習の体験などを行った。
船峅小５年生を招いての作業学習体験
１月　民生委員児童委員の方との交流会。
・ペットボトルボーリングやゲーム、かるた、合唱などを行った。

○地域の清掃、花壇、除雪等の整備を行った。
４月　花壇の整備
９月　通学路の清掃、除草
１１月　学校付近の側溝の清掃、花壇の整備
１月　通学路と田村町バス停付近の除雪（２回）</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>A</td><td colspan="2">・地域の方々を学校にお招きしての交流活動の回数、地域へのボランティア活動の回数ともに目標回数を達成したのでA評価とした。
・芝植えでは、植え方や道具の使い方などを教えていただいたり、お互いに励まし合ったりしながら作業を行い交流を深めることができたと思う。また、民生委員児童委員の方との交流会では、生徒が中心になって計画立案、当日の運営を行い、生徒の様子を見ていただくよい機会となった。</td></tr>
<tr><td>学校評議員
の意見</td><td colspan="3">・地域の方々との交流により、結果としてコミュニケーションに伸びや広がりが見られた、というのではなく、個別の教育支援計画等に明記し計画的に指導を行うとよい。</td></tr>
<tr><td>次年度へ
向けての
課題</td><td colspan="3">・福祉施設等でのボランティア活動を計画的に行う。
・学校としての地域交流の目的、及びその目的に沿った個々の生徒の目標をより明確にし、計画的に地域交流を進める。</td></tr>
</table>

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）